

# け

## けんかして 仲直りして またけんか

Keyword : コミュニケーション力, 協調性, 人間力



1985.7/広島大学附属東雲小学校/臨海学習（がね海水浴場にて）

上掲の写真は、筆者の実践「人の乗れる船をつくろう\*1」です。「自分たちがつくったものに乗って遊びたい」という強い願い（内発的動機）にもとづき、なにしろ他のどんな題材よりも自主的・主体的に子どもたちが喜びながら取り組み、くだんの名刺くわ（Page17）に刷り込んでいる図式を反映する代表的な題材と考えています。

また、学校における美術教育が、単に「美術の教育（Education for Art）」に終始するようであれば意味半減との考え方をベースに、「美術による教育（Education through Art）」を具体化するため、1グループ数名（8名程度）を「浮沈」の運命共同体として製作に取り組ませた典型的目的表現（工作）です。妥協や中途半端は許されません。子どもたちとしては、なにがなんでもきちんとした船を完成させ、乗って遊びたいと内発的動機は120%です。本気であるが故に当然のことながら摩擦も発生します。しかしなにはともあれ自分たちのしたいことでありなんとか妥協点を探り出し自分たちで乗り越えていきます。

\*1 石原英雄・橋本泰幸「工作・工芸教育の新展開」, ぎょうせい, 1986年, pp199-201



本題材開発当初（1977）の活動風景／広島大学附属東雲小学校校舎屋上にて



1985.7／広島大学附属東雲小学校図画工作室横の廊下にて

のみならず子どもたちは自主的に授業時間外活動を組み、私たち教員の心配はどこ吹く風です。グループ毎の早朝登校（6：00）、そして放課後は居残りの作業を展開し、ゆっくり下校の始末です。



ベニヤ板、発砲スチロール、角材で／広島大学附属東雲小学校校舎屋上にて（1977）

私の指導（支援）が最も必要だったのはこの題材の初年度でした。以降の十数年間は、前年度の取り組みが資料となり、子どもから子どもへと継承、積み上げられ、材料、構造等、極論すれば1年生の時から数年がかりで「自分たちの時は」と考え、結果的には私の思いもおよばないアイデアで挑むのです。特段の無理なく私が継続できた所以です。まさに頼もしい子どもたちの姿を見守るだけでした。



1985.7／広島大学附属東雲小学校図画工作室横の廊下にて



1985.7／広島大学附属東雲小学校図画工作室にて

以下、本題材に関する余談2件。

ひとつは、私、図工教師として様々な題材開発に取り組んできましたが、授業時、最も手のかからなかったのがこの題材です。私からの指示・示唆等ほとんど不要の目的表現でした。極論すれば子どもたちが怪我をしないように見守り、子どもたちが要求（必要と）する材料を可能な範囲で調達すれば活動は展開するのです。

このことにまつわる第2の余談は、小学校教員として14年間勤めた最後の年のこと。先輩達の作った船を見て、「来年、僕たちは空を飛ぶモノをつくる。そして屋上から飛ぶんだッ」と胸の内を明かしてくれた男子児童の爆弾発言のこと。心から笑ったことが記憶に鮮明です。かくほど本題材は内発的動機に支えられていたのです。きっと五感覚総動員、脳を鍛え、美術力、人間力につながる題材だからだろうと甘い自己評価をしています。



広島大学附属東雲小学校プールにて（1980）



広島大学附属東雲小学校プールにて（1980）

なお、こうした“ずこう”はあらゆる連携なしではあり得ません。子どもたちの安全確保を最優先に教師集団・保護者の全校全面支援のおかげで可能になったことです。いまあらためてこのことに思いを馳せここに記して感謝申し上げます！